

美と健康Ⅱ（口と疾患）

（1）科目の紹介

基本情報	平成 25 年度・教養教育・前期	曜日・校時	火 3 限
モジュール名	美と健康	科目名	口と疾患
教員名（所属）	吉村 篤利, 柳口 嘉治郎, 黒木 唯文（歯学部）		教室 A-12
選択者数	55 名	2 年生の所属学部	工学部 環境科学部
再履修数	0 名	(50 名)	(5 名)
<p>授業のねらい：</p> <p>顎関節障害、咀嚼障害、齲蝕、歯周病などの口の疾患の原因と症状、治療法、予防法について理解し、口の健康維持について必要な知識を健康増進に活かす。</p>			
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「顎関節障害・咀嚼障害」、「齲蝕の原因と症状」、「歯周病の症状と治療」のそれぞれの項目に関して、学生に課題を課して自主学習を促した。 学生を5つの小グループに分けて、質疑討論を行わせた。その際に、それぞれのグループに TA を配置してファシリテーターとした。 グループ毎の討論の後に全体発表を行い、グループ間の質疑応答を介して批判の目も養えるように促した。 テーマ毎に学習成果をまとめて提出させ、学習成果を目に見える形とした。 学生の自主学習の成果に対してフィードバックを行い、また適宜短い講義を取り入れて学生の理解を促した。 「顎関節障害・咀嚼障害」では、学生自身が手を動かす実習スタイルを採用した。 			

（2）学修の評価

到達目標	口の疾患の原因と症状、治療法、予防法について説明できる。
成績評価の方法	レポートなどの提出物、口頭試問、発表態度

（3）授業の進行

概要：		
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）

1	顎関節障害・咀嚼障害（1）（黒木唯文）	「顎関節障害・咀嚼障害」の授業の流れを説明し、クラスのグループ分けを行った。実習書を提示し、次回までの予習を促した。
2	顎関節障害・咀嚼障害（2）（黒木唯文）	実習書に従って、学生同士で様々な計測を行わせた。その中で生じた疑問、質問に関して、5グループにそれぞれ1人ずつチューターを配置して相談できるように作業環境を工夫した。
3	顎関節障害・咀嚼障害（3）（黒木唯文）	実習書に従って、学生同士で様々な計測を行わせた。その中で生じた疑問、質問に関して、5グループにそれぞれ1人ずつチューターを配置して相談できるように作業環境を工夫した。また、次回の課題ごとの調査結果のプレゼンテーションの準備に時間を充てた。
4	齶蝕の原因と症状（1）（柳口嘉治郎）	「齶蝕の原因と症状」について、5種類の硬組織疾患について説明した後、班分けを行い、さらに班ごとに5つのグループに分かれどの疾患を調査するか決めさせた。
5	顎関節障害・咀嚼障害（4）（黒木唯文）	各グループごとのプレゼンテーションを行い、ディベート（ディスカッション）の時間を設け、課題全体の理解を深めるために有意義な時間を過ごした。最終的には個々に実習書を提出することを義務づけ、討論への参加を促した。
6	齶蝕の原因と症状（2）（柳口嘉治郎）	各班決まったテーマについて調査を行っていくが、それぞれ1名のチューターをつけることで、疑問点が生じた場合すぐ質問できるような環境を整えた。
		各班決まったテーマについて調査を

7	齲蝕の治療と予防（1）（柳口嘉治郎）	行っていくが、それぞれ1名のチューターをつけることで、疑問点が生じた場合すぐ質問できるような環境を整えた。
8	齲蝕の治療と予防（2）（柳口嘉治郎）	前回までにまとめた調査結果について最終的にチューターに確認してもらいさらに次回発表に備えてチューターの助言を受けながら模造紙にプレゼンテーションの準備を行った。
9	齲蝕の治療と予防（3）（柳口嘉治郎）	班ごとにプレゼンテーションを行いそれぞれに質疑・応答の時間を設けた。最後にそれぞれの発表を聞いて今の自分がどの疾患に最も気をつけないといけないか書いて提出してもらった。
10	歯周病の症状と治療（1）（吉村篤利）	「歯周病の症状と治療」の授業の流れを説明し、クラスのグループ分けを行った。次回の課題を提示し、予習を促した。
11	歯周病の症状と治療（2）（吉村篤利）	歯周病の症状について各グループごとに役割を決めて調査内容をまとめさせた。その中で生じた疑問、質問に関して、5グループにそれぞれ1人ずつチューターを配置して相談できるように作業環境を工夫した。各グループに発表してもらい、グループ間での質疑応答を行った。最後に次回の課題を提示し、予習を促した。
12	歯周病の症状と治療（3）（吉村篤利）	歯周病の原因について各グループごとに役割を決めて調査内容をまとめさせた。その中で生じた疑問、質問に関して、5グループにそれぞれ1人ずつチューターを配置して相談できるように作業環境を工夫した。各グループに発表してもらい、グループ間での質疑応答を行った。最後に

		次回の課題を提示し、予習を促した。
13	歯周病の症状と治療（4）（吉村篤利）	歯周病の治療法について各グループごとに役割を決めて調査内容をまとめさせた。その中で生じた疑問、質問に関して、5グループにそれぞれ1人ずつチューターを配置して相談できるように作業環境を工夫した。各グループに発表してもらい、グループ間での質疑応答を行った。最後に次回の課題を提示し、予習を促した。
14	歯周病の症状と治療（5）（吉村篤利）	歯周病の予防法について各グループごとに役割を決めて調査内容をまとめさせた。その中で生じた疑問、質問に関して、5グループにそれぞれ1人ずつチューターを配置して相談できるように作業環境を工夫した。各グループに発表してもらい、グループ間での質疑応答を行った。
15	歯周病の症状と治療（6）（吉村篤利）	歯周病の症状、原因、治療法、予防法についてスライドを用いて復習を行い、学生との質疑応答を大古なった。

（4）授業の成果

全体の総括	<p>顎関節症・咀嚼障害、虫歯、歯周病などの、比較的身近に潜む口の疾患について、積極的に学習に取り組むように、毎回課題を設定して自己学習を促した。また、グループ毎に役割を決めて討論を行い、発表の機会を多く設定した。総じて、学生は積極的に討論に参加し、時には教員の期待以上の発表や質疑応答もみられた。これらのアクティブラーニングも含めた授業を介して、学生の「口と疾患」に対する理解を深めることができたと思われる。</p> <p>しかしながら、全ての学生が授業に集中していたとは言い難く、グループ毎の討論や発表の準備の際に、私語の多い学生が見られた。これらは、次年度に向けて改善すべき反省点である。</p>
-------	---

今後の改善点	<p>より多くの学生に授業への積極的参加を促すために、以下の3点について改善する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アクティブラーニング事例集の別紙3「プレゼンテーションの相互評価フォーム」を活用する。 2. TAの役割を明確化し、より積極的にグループ討論のファシリテーターとしての役割を果たしてもらう。 3. グループ毎の提出部物にTAからのフィードバックを加える。また、採点の対象とする。
--------	---

(5) アクティブ・ラーニングの充実にに向けた提案

ポイント提案	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現状でも大学教育機能開発センターから多くの情報が提供されているが、「モジュール科目の狙い」をモジュール科目を担当する全ての教員およびTAに理解してもらおうと、授業をより効率的に進められるかもしれない。 2. 現状で実施できないわけではないが、学生が課題について調査する際に、図書館やインターネットへのアクセスしやすい環境が必要。
参考になる資料	

(別添資料)